ひろば

－第１８５号－

令和５年10月号

発　行：自由ヶ丘地区
コミュニティ運営協議会
住　所：自由ヶ丘3-12-11
TEL：32-5594　FAX：35-3250
メール：jiyuugaoka-cc@oboe.ocn.ne.jp
http：//www.jiyuugaoka-cc.com/

自由ヶ丘人口調査
【令和5年8月31日現在】
世帯数　6,384世帯
人口　14,729人
男性　6,964人
女性　7,765人

災害時心強いのは 地域力

自助 一人ひとりが自分や家族の命を守る
共助 地域や身近にいる人同士が互いに助け合う
公助 行政機関が救助・支援活動を行う

自由ヶ丘第３区会の防災訓練を取材しました！

９月９日（土）自由ヶ丘第３区会では、初めての試みとして自治会独自の防災訓練が実施されました。防災士としても活動されている自由ヶ丘第3区会の区長：中村裕さんに、防災訓練への思いをインタビューしました。

『防災訓練にあたって。関東大震災発生から100年が経ちましたが、日本列島、「何時・何処で」自然災害に見舞われるかわかりません。今年も、能登地方で震度６強の地震や、台風や線状降水帯による水害が各地で発生しています。第３区会は比較的、自然災害に強い地区ですが、大型台風や大地震による被害の可能性があります。自然災害を「他人事（ひとごと）」ではなく「自分事」と考えて減災の備えをお願いします。今回は初めての試みとして防災訓練を実施しました』

実際、9号公園では、三役や運営委員のみなさんが集まり、一時避難場所本部の立ち上げがなされ、コミセンの調理室では福祉委員や民生・児童委員のみなさんが、炊き出しのカレーを調理されていました。地域力向上への熱い思いを感じました。

①一時避難所本部設置訓練

第３区会の公民館は、土砂崩れ被害想定地域に指定されているため、一時避難場所本部として開設できません。今回は、地震が起きたという想定で、９号公園に一時避難場所を設営し、避難者の名簿作成や状況を把握・整理し、その後、指定避難場所へ誘導する事を想定した訓練です。

②炊き出し訓練

③住民避難訓練

参加者の様子

１００人近くの住民が参加。若い世代の親子や小学生、高齢者の参加が目立っていました。避難して来たらまず受付をし、炊き出しのカレーを受け取るという流れは混乱もなくスムーズでした。参加者から「災害があった時は、避難所として公園を活用するのか？」との質問もあり、一時避難所としての公園の活用と役割を伝えていました。また、パトロールカーで呼びかけをすると、参加者が増えたことで、災害時も状況をみて、パトロールカーでの呼びかけなども役に立つのではないかなどの意見も出され、今回の経験を踏まえた上で、今後、地域に添う防災計画がなされていくと感じました。

青少年育成部会

自小・南小の寺子屋 合同開催！！

８月19日（土）自由ヶ丘コミセンで、自小・南小の寺子屋が合同開催されました。13：00～14：00まではいつもの学習です。「夏休みの宿題は終わった？」「終わったよ！」そんな会話も聞こえます。休憩後の14：15～は、場所をホールに移してレクリエーションタイム。最初は顔見知りになるゲームでリラックス。そのあと、ニュースポーツ種目は〝ディスゲッター〟。子どもたちは自小・南小混ざっての４チームを編成。最初はコツがつかめず苦戦していましたが、みるみる上達していきました。最後は、大人もチームを作り、子どもたちと対戦です！大人げなく!?いえいえ、童心に帰って楽しみました。帰りにお土産をもらって笑顔で解散です。今後は、年に2回くらい開催できたらいいなと思います。

子ども達の上達、すばらしい！

自由ヶ丘防災士会

小学生も防災体験へ

７月26日（水）は10人（大人４人、子ども６人）と8月23日（水）は19人（大人8人、子ども11人）の参加で、今年度初めての試み、小学生向けの福岡市防災センター研修を開催しました。宗像市のバスをお借りしてプチ旅行気分。煙からの避難体験、消火体験、地震・避難体験などを疑似体験し、子どもたちはハラハラ、ドキドキ。子どもたちからは「VR体験、地震体験は初めてで怖かった」「消火体験で火事だー！っと声を大きく出すのはできたけど、消火器が重かった」など子どものリアルな感想が飛び出しました。この体験は子どもたちにとって、夏休みの宿題の助っ人にもなれたかな？

引率した防災士の松尾さん、若浦さんは「みなさん、防災について楽しく学んでくれて良かった」「これからもたくさんの子どもたちに防災意識を高められる活動をしていきたい」と話してくれました。

自由ヶ丘地区は、大きな災害を経験したことはありませんが、災害はいつどこで起こるかわかりません。大人・子ども関係なく、防災意識を高めることは大切です。

ジェンダー平等推進会

ジェンダー平等をフカボリ

８月27日（日）コミセンホールでは、ジェンダー平等推進会と宗像市男女共同参画推進センターの共催で〝災害対応力up講座～もしもに備えて知っておきたい「防災」のこと「避難所」のこと～〟が開催され、 26人の参加者がありました。講師、武藤桐子さん（NPO法人福岡ジェンダー研究所研究員）の話を聞くだけの講座ではなく、避難所運営ゲーム〝HUG（ハグ）〟を使って災害時の色々な状況を想定し、避難所運営を体験しました。災害時には、さまざまな人が、さまざまな状況で避難して来ます。その中での対応は、迅速な判断が必要となり、避難者への対応だけでなく、物資や仮設トイレ、テントなどの配置も考えないといけないのです。実際の災害時に冷静に判断できるのか…と不安を感じました。

最後に講師の先生との振り返りで、

☆洗濯ものを干す場所は男女分けましたか？
☆仮設トイレの割合は男女比を考えましたか？
☆個人情報（DV被害者、人に知られたくない状況）の取り扱いは？
☆支援物資要望内容は平等に考えられたか？

などの課題から、ジェンダー平等の視点が欠けていることに気付きました。避難所を運営するためには、〝一人ひとりの人間が性別にかかわらず、平等に責任や権利や機会を分かち合い、あらゆる物事を一緒に決めることができる〟というジェンダー平等の基本的な考えがとても大切だと感じました。

参加者の声（アンケートより抜粋）

◎男性女性で必要となるモノ・コトが違っていたので役に立った。
◎防災計画を作る前には必要なゲームだと思いました。
◎災害時だからと言って我慢しなくてよい。平時から問題点を意識して見つけ、対応できる力をつけていきたい。
◎LGBTQ、障がい者、高齢者などニーズに応じた配置が必要だと分かった。